

## 会議結果報告書

### 1 会議の名称

光市まちづくり市民協議会  
(第3期光市まちづくり市民協議会第3回会議)

### 2 開催日時

平成23年8月1日(月)午後7時から午後8時40分まで

### 3 開催場所

光市役所大会議室1・2・3号室

### 4 出席者

光市まちづくり市民協議会委員33人中27人

### 5 公開・一部非公開の別

公開

### 6 会議の議事録(要旨)

#### (1) 会長あいさつ

本日の会議では、総合計画後期基本計画の中間報告が示された。資料を事前にご覧いただいたと思うが、「時代の潮流」「市民意識の変化」「前期5年間の成果と評価」など、主に、これからの具体的な取組を検討するための前提部分が取りまとめられている。

この度の中間報告で示された内容を土台に、今後、「地域別まちづくり・きらめきワークショップ」の内容などを踏まえて、計画の具体的な内容や目玉となるプロジェクトの取りまとめが行われるものと思われる。言い換えれば、今はまだ、計画づくりに、皆さん方からの多くの意見を求めている段階であるということである。

中間報告は、まだ、計画の核心部分にまで踏み込んでおらず総論的な展開であるため、全体的にやや議論がしづらいかもしれない。また、事務局においても、明快な回答が困難な場面があるかもしれないが、これからの計画づくりにつながるような、前向きで建設的な意見交換をお願いしたい。

## (2) 協議事項

### ① 総合計画後期基本計画及び都市計画マスタープランについて

- ・ 事務局の説明  
(省略)

- ・ 質疑  
(委員)

Uターン等定住者のネットワークを立ち上げて3年くらい経ったが、その後Uターン等された方が何人くらいいたか。市ホームページにサイトを設けるなどした効果はどのくらいあったのか。

(事務局)

手元に資料がないので正確な数字は分かりかねる。

(委員)

情報発信だけでなく、効果についても目を向けてほしい。

(事務局)

転入者数は調べれば分かるが、ホームページ等との因果関係までは分からない。U J Iターンの政策によって、どれだけ成果が出るかというのはなかなか把握が難しいのが実情である。

(委員)

例えば、住民票を見ると、60歳以上はどのような方が入ってきたかが分かる。そういう見方もしてほしいと思う。

(委員)

環境保全は何の為の保全なのか。象鼻ヶ岬などにある施設が壊れたまま放置されていることがある。壊れたから撤去するのではなく、活用してほしい。何の為の保全なのかを考えてほしい。自然を愛する人は多くいる。保全の目的をしっかりとってほしい。

(事務局)

自然と人々の生活が共生していくことが大切だと思う。自然環境を大切に守り育て、次の世代にしっかりと受け継いでいくとともに、守っていかなければいけない。そのバランスを保ちながら、自然環境の保全をやっていかなければいけないと思う。

(委員)

草が生えていれば草を刈る。ごみや糞があれば掃除をする。共存できないものがある。ごみを拾うだけでなく、ごみを出さないようにすることも大切。自然と触れ合う必要がある。自然の怖さを体験する必要もある。共存という意味をみんなが本当にわかって動いてもらいたい。

(会長)

貴重なご意見をいただいた。

(委員)

防災について、安全・安心に関する満足度の達成率166%は本当なのかなと思う。市は災害対策をしっかりとやられていると思うが、東日本大震災の状況を見ると万全ということはない。

例えば、命がどう守られていくのか。100人亡くなるのはだめで10人ならよいのかということではない。津波が去った後、避難所で亡くなった方もいるので、避難のことが重要になってくる。

「あいぱーく光」も避難場所になっているが、海に近いところにある。それぞれの避難所がそれぞれの災害に対して万全なのかどうなのかチェックも必要。防災の中に避難を明確に示す必要があると思う。今までと同じような感覚で防災、避難というのを続けていってよいのかどうなのか。達成率166%が絵空事に感じている。

(事務局)

防災については、3月11日（東日本大震災）以降、重要性が変わってきている。委員の皆様方にもご協力いただいている「地域別まちづくり・きらめきワークショップ」では、テーマの一つとして防災についてのアイデアもいただいている。今後、そういったことを踏まえて、総合計画の中で光市としてどういったことができるのか、検討していかねばならないが、より効果的な施策について細かく検討してまいりたい。

(委員)

「地域別まちづくり・きらめきワークショップ」に参加したが、プロジェクトを誰が担うのかについて、多くの班から地域住民だとして発表があった。当然の流れだと思うのだが、市で行われたワー

クショップで、やるのは市民の皆さんだという結論になって、そこから先が何もないというのは、このワークショップは一体何だったのだろうという疑問が残る。何か仕組みがないと、本当に役に立ったのだろうかという疑問がいつも残り、残念だ。そのあたりを計画の中に、仕組みとして挙げていただけると、進んでいく気がする。

(会長)

ワークショップの中では、地域住民が主体性を取るようになったが、それを繋ぐものが何か必要ではないかということ。地域と住民が一緒になって取り組むが、出された意見をどのように繋げていくか、そのシステムづくりが必要だということであろう。

(委員)

役割分担はよくわかるが、それだけでなく、繋げる仕組みが必要。トイレが壊れたから使用を禁止した、というのではなく、壊れたからどうしようか、という話し合いがあればよかったと思う。

(委員)

自然環境取組（取組の会）について、一つ一つやるのではなく、個人でなく、まとまってやる。組織を作って保全するためにやるんだということにしないといけない。清掃も同じだと思う。

(委員)

最近、光市民活動ポータルサイトというのができた。各種市民活動団体が紹介をしている。同じ考えの人たちを集めるとか、その人達のニーズを集めることをしたらよいと思う。

(事務局)

ワークショップで出されたアイデアについて、それぞれの役割について、しっかり明確に位置付けていくことができればと考えている。また、市民活動は目玉的なので、どこまで行政が関われるか、担当課へ伝えていく。

(委員)

時代の潮流の部分で、税収が減っているということは、個人の収入も減っているということだ。若い人達に対してどうしていくか、どうマスタープランや基本計画に示していくつもりなのか。アン

ケート調査の回収率も低い。

(事務局)

アンケート調査について若い人達の回収数は少ない。いい方法があればぜひ教えていただきたい。

(委員)

アンケート調査結果から年代別の回収率が求めることができるはず。回収率が低い年代には、上増しして配付すればよいと思う。

(事務局)

ベースを変えると経年変化が読み取れなくなるので難しいかもしれないが、検討していきたい。

(委員)

アンケート調査の方法については、行政改革市民会議でも同様の指摘をしたが、なかなか反映されない。この協議会で出された意見も結局反映されないと思う。審議会であれば意見を取り入れられたと考える。市長も交代したので、基本構想を改訂しないといけないと思う。

(事務局)

合併協議会にて、地域審議会に代わるものとして、市民協議会を設置することに決まった。市民の声が反映されないという指摘だが、これまでにいただいた意見は各論となる第4章以降で、できるだけ反映していきたいと考えている。

(委員)

合併協議会で決めたことをそのまま進めているが、間違っているのであれば、早期に見直すべきだ。地区分けも、なぜ、6つの地域でやらないのか。連合自治会や民生委員も同じことがいえる。変えていかないといけないと思う。

(委員)

この計画を推進していく推進力はどう考えているか。市民力が大切だと思う。満足度・重要度のギャップを埋めていくために市民の声を取り入れて、市民の意識も上がる、市民力の向上へ向けて取組

を進めてほしいと思う。

(事務局)

市民力、ひいては地域力が大切だと考えている。

(委員)

本協議会について、諮問を受け答申するような位置付けのある会議としてほしい。

## ② その他

### 「未来の光市」絵画コンクールについて

- ・ 事務局の説明

(省略)

- ・ 質疑

(委員)

コンクールの目的について、子どもたちに対してレクチャーをしたのか。未来に関心を持ってもらうきっかけとして、きちんと説明した方がよい市民参加になると思う。

(事務局)

直接の説明はしていないが、チラシを配付し、学校を通じて説明をしていただいているはずだ。市民アンケート調査も16歳以上を対象にするなど工夫をしている。

## (3) その他

事務局から次回の予告（10月から11月頃）